

## —子供の情報活用能力を伸ばしていきましょう—

現在、学校は、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を進めながら、子供が資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指しています。その学びや学び方を、効果的・効率的に支援するツールが、一人一台端末に代表されるICTです。

これからの子供たちに必要とされる **情報活用能力** は、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために、ICTも適切に用いながら、情報を整理・比較したり、発信・伝達したり、共有したりする力です。この力は、授業だけでなく、様々な場面での活用によっても育っていきます。

なかでも、**情報モラル**に関しては、発達段階に応じて、保護者とも連携して育成していくことが大切です。そこでは、IDやパスワードの適切な管理や、自分の生活とメディア利用時間との適度なバランス、SNSでの上手なコミュニケーション等について、安全に行動するための方法や理由を学びつつ、最終的に子供が自分で判断して適切に活用し、行動する力と態度を身に付けることが必要です。

ICTを駆使して情報を主体的にとらえ、必要に応じて他者と協働しながら問題を解決したり、新しい価値を創造したりする時代が、もうそこまで来ています。このリーフレットを参考に、子供たちの情報活用能力を伸ばしていきましょう。

### <情報活用能力育成に有用なサイトの紹介>

StuDX Style  
(文部科学省による一人一台端末の活用事例サイト)



情報モラル学習サイト  
(5分程度で情報モラルの学習ができるコンテンツをたくさん掲載)



「一人一台端末の有効的な使い方」事例集  
(県教育委員会が作成した授業でのICT活用事例集)



ネット社会の歩き方  
(モラル学習に使えるテキスト PDF 等がダウンロード可能)



情報教育の充実に関する研究  
(愛知県総合教育センター作成の、動画によるICT活用授業の紹介)



児童生徒の健康に留意して ICT を活用するためのガイドブック  
(文部科学省の健康面に関する指針)



# もっと活用 !! ICT !!

～ICT を授業以外でも活用し、情報活用能力を伸ばす～



このリーフレットは、一人一台端末が各教科の授業はもちろん、授業以外でも最大限に活用されることを目指し、作成しました。

授業以外での活用には、子供自身が使う場を増やすこと、家庭での活用を日常化すること、そして教職員自身も積極的に活用することの三つが重要であると考えています。愛知県義務教育問題研究協議会で、たくさんのアイデアを集めましたので、ぜひ参考にしながら一人一台端末を日常的に使用し、子供たちの情報活用能力を伸ばしていきましょう。

## 1 もっと子供がICT

子供の活躍の場を広げる / 特別な支援が必要な子供を輝かせる

## 2 もっと家庭でICT

家庭学習で活用する / 家庭との連携に活用する

## 3 もっと教師もICT

子供と過ごす時間を増やす / 教職員のみinnで活用する

愛知県義務教育問題研究協議会  
愛知県教育委員会  
令和5年3月



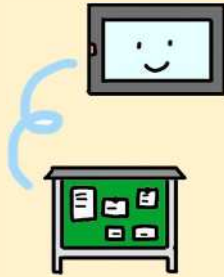
# 1. もっと子供が ICT

ICTを活用して子供の活躍の場を広げる  
何かよい方法はないかな？



**アイデア 1** 委員会活動の時間にも一人一台端末を使ってみてはどうでしょうか。

学習支援ソフトを使って、子供が委員会活動に関連する話題を自分で調べてまとめたり、全校に伝えたいことを記事にしたりします。電子データなので、教材への活用、各種たよりの掲載も容易にでき、子供の活躍の場が広がります。



**○ ポイント**

不確定な情報や間違った情報が広まらないよう、教師が子供の活動を見守り、助言します。最初は見本を示すとよいです。



**アイデア 2** 私の学校では、地域の防災訓練で子供が一人一台端末を活用して、大活躍しました。

一人一台端末の機能（画像・動画撮影、情報の伝達・交換や共有）は、災害時にも役立ちます。私の学校の地域防災訓練では、子供たちが一人一台端末を活用して、地域の方と交流しながら、街の情報をリアルタイムに取材し、防災活動に貢献しました。



**○ ポイント**

安全に防災訓練を実施するため、地域の方との打合せを丁寧に行い、子供たちの役割を明確にしましょう。



**アイデア 3** オンライン集会を子供に任せると、企画力・運営力・発信力を大きく伸ばすことができます。

各教室をウェブ会議ソフトでつなぎ、オンラインで児童集会を行います。企画の段階で子供たちからアイデアを募り、オンラインを生かした集会にします。映像やチャット等で双方向にやり取りをし、各教室からクイズをすることもでき

ます。一人一台端末を持ち運んで撮影すれば、テレビ番組のような多元中継も可能です。



**○ ポイント**

テレビ番組等をイメージしながらアイデアを出し合い、考えるよう促すことで、子供たちの企画力・運営力・発信力が高まります。



ICTに苦手意識のある先生に積極的に使ってもらうよい方法はないかな？



**アイデア 16** 子供との連絡に使うなど、使用場面を増やすことで慣れてもらうのはどうでしょうか。

教職員と子供がつながることのできる学習支援ソフトを使ってみましょう。朝の会での連絡や、連絡帳に書かせていた持ち物等が配信できれば、時間短縮の効果を実感できます。慣れていくことで、苦手意識も変化します。



**○ ポイント**

学級のグループ、委員会のグループ等、所属に応じてグループを作るとよいです。教職員がしっかりと見守るようにしましょう。



**アイデア 17** まずは、全ての教職員が普段の校務の中で使う場面を増やすことから活用をスタートしました。

授業でいきなり新しいアプリを使うのは不安なので、まずは、教職員が普段の校務の中で使うことが重要です。職員会議での議題に関する意見を表計算ソフトで集めて共有するなど、授業につながる試みをまずは教職員の間でやってみましょう。



**○ ポイント**

校内研修や職員会議の中で一人一台端末を活用し、意図的に全ての教職員が触れる場面を作りましょう。



**アイデア 18** 校内で小さな研修を積み重ね、授業で使えるアプリを少しずつ増やしましょう。

OSに標準で用意されているアプリには、授業で使えるものがたくさんあります。校内で、小さな研修会を行ったり、使い方の説明動画を校内の共有ドライブに入れ、いつでも見られるようにしたり、短時間でできる校内研修を活性化させましょう。

このリーフレットで活用されているOS標準の様々なアプリ

学習支援ソフト	クラスルーム	Google Classroom™	Teams
文書作成ソフト	Pages	Google ドキュメント™	Word
表計算ソフト	Numbers	Google スプレッドシート™	Excel
プレゼンテーションソフト	Keynote	Google スライド™	PowerPoint
デジタルホワイトボードソフト	フリーボード	Google Jamboard™	Whiteboard

**アイデア + α**

- ・授業のワークシートや振り返りを全てデジタル化し、印刷や集約の手間を減らす。
- ・研究授業の感想や気づき等を、表計算ソフトで集約し、協議の時間を短縮する。
- ・ICTに関する校内の困りごとを集約したFAQを作成し、クラウドで共有する。
- ・クラウドでうまくいった事例を紹介したり資料を共有したりする。職員間チャットも活用する。



# 3. もっと教師も ICT

どのように ICT を活用すれば、  
子供と過ごす時間が増えるのかな？



**アイデア 13** 資料をデジタル化すると、いつでも PC やタブレットで確認できるので、時間を生み出せます。

会議資料や年間・月・週等の予定をデジタル化すれば、教室でも常に情報を確認することができます。また、資料作成や印刷・配布にかかる時間も削減でき、ペーパーレスにもつながります。

教職員の連絡事項も端末で共有すれば、打合せをもつ機会を減らせます。



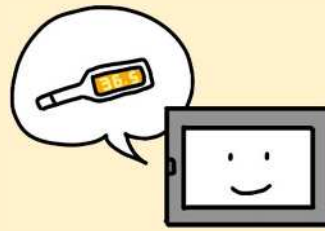
**○ ポイント**

緊急時の対応マニュアルや学校独自のガイドブック等、いつでも内容を確認できるようにデジタル化しておく便利です。



**アイデア 14** 一人一台端末を活用して日々の検温や健康観察を行うのは、大変おすすめです。

感染症対策として行っている検温や健康観察を、一人一台端末を使って子供自身に入力をさせれば、検温表を集める必要がなくなります。教職員に直接提出するので、子供も安心して健康状態を伝えることができます。



**○ ポイント**

教職員間で記録を共有すれば、担任以外の教職員でも職員室から子供の健康状態や欠席を確認することができます。



**アイデア 15** 行事等の振り返りや反省は、アンケートフォームを活用すれば簡単に作成・集計ができます。

行事が終わった時に、振り返りを行う学校も多いと思います。質問の項目や、対象となる子供や教職員の数が多いと、それだけで一苦勞です。ウェブを活用したアンケートフォームを使えば、簡単にアンケートを作成し、あっという間に集

計もできます。ウェブのアンケートフォームを使い、子供と過ごす時間を増やしましょう。



**○ ポイント**

保護者がウェブでの回答に慣れるまでは、プリントでも回答ができるよう、併用することをおすすめします。



特別な支援を必要としている子供を、  
ICTで輝かせる方法はありませんか？



**アイデア 4** 一人一台端末の撮影機能を使えば、書くことが苦手な子供でも観察記録を楽しくつけられます。

文字や文章を書くことを負担と感じている子供は、写真で撮影したものを記録として蓄積していったはどうでしょうか。負担になる活動を取り除くことで、学習への意欲が増した子供が本校にはいます。



**○ ポイント**

一人一台端末で作成したものを、発表や掲示に活用すると、子供たちの認め合いにもつながります。



**アイデア 5** 一人一台端末の翻訳機能を使いこなせば、外国にルーツをもつ子供の目が輝きます！

外国から来たばかりの子供が、少しでも日本の学校生活になじむことができるように、一人一台端末の翻訳機能を使いましょう。授業に参加したり、友達と少しでも話したりすることができるのであれば、子供の目も輝きます。



**○ ポイント**

一人一台端末を子供が自分で操作できるようになると、主体的に道具として使うことができます。



**アイデア 6** 不登校の子供と担任がウェブ会議ソフトでつながると、少しだけ不安を和らげることができます。

不登校の子供と担任がウェブ会議ソフト等でつながれば、学校の授業の様子を伝えることができます。また、不登校の子供が家庭で取り組んだ学習を写真や動画で送れば、学校に自分の頑張りを伝えることもできます。チャットならば話が

できる子供もいますので、友達とつないだり、学校との距離を縮めたりすることができます。



**○ ポイント**

学校とつながると、保護者の安心感にもつながります。管理職にも、そのチームに入ってもらうと、より安心です。



**アイデア + α**

- ・大きな行事に関する予告動画、報告動画等を子供が作成し、全校に放送する。
- ・朝の支度のマニュアル等を、子供自身が一人一台端末で作成する。
- ・外国籍の子供が成長を実感できるよう、日本語を使ってロールプレイする動画を蓄積する。
- ・ウェブ会議ソフトで、他校の特別支援学級等と定期的に交流を行う。



## 2.もっと家庭で ICT

家庭学習に一人一台端末を使いたいけれど、どこから始めればよいのかしら？



**アイデア7** 保護者の理解を得ながら、少しずつでもよいので、持ち帰りを日常化していきましょう。

一人一台端末を家庭でも活用するには、保護者の理解が欠かせません。Wi-Fiがない家庭のことを考えて、オフラインでも可能な使い方から始める、週に一回から始めるなど、少しずつ活用の幅を広げていきましょう。



### ○ ポイント

持ち帰りを日常化すると、休校や学級閉鎖の時にも慌てずにすみませう。持ち帰る日は、荷物の重さ等にも配慮をしましょう。



もっとくわしく

**アイデア8** 毎日の習慣となっている取組を、一人一台端末を使ってやってみましょう。

今まで生活記録ノートに書いていた翌日の連絡や持ち物、毎日の日記を、一人一台端末を使って取り組んでみてはどうですか。毎日の取組ならば、継続的に取り組みつつ、子供のタイピングのスキルも伸ばすことができます。



### ○ ポイント

毎日行う活動に一人一台端末を活用することで、家庭でのICT利用が日常化していきます。前もって約束事も決めておきましょう。



もっとくわしく

**アイデア9** 家庭ならではの使い方ができる宿題を、一人一台端末で取り組ませてみてはどうですか。

「家庭にある外国産の食品表示を写真に撮る」「見本動画を参考にピアノの練習を聞いてもらう」「学校でのスピーチの様子をおうちの人に見せ、コメントをもらう」など、家庭学習に一人一台端末の活用が必要な宿題を出してみましょう。子

供が、ICTを活用して学ぶ姿を保護者に見てもらおうと、多くの協力を得られやすくなります。



### ○ ポイント

持ち帰りを始めたら保護者アンケートを取り、家庭での課題を共有して一緒に解決法を探ると、情報モラルでの連携が深まります。



もっとくわしく

他の学校では、家庭との連携にどのようにICTを活用しているの？



**アイデア10** 私の学校では、日々の学校の様子を配信して、保護者や子供とのつながりを深めています。

日々の授業の板書、学校の様子や連絡等の写真をウェブ会議ソフトの学級グループに載せることで、保護者にも様子が伝えられます。生活や学習の振り返りにも活用できますし、長期休業中のつながりも期待できます。



### ○ ポイント

学級の中でグループを作成し、日々の様子や連絡を公開しておく、保護者の関心や安心感も高まり、連携がとりやすくなります。



もっとくわしく

**アイデア11** 保護者が学校に行かなくても参加できる「オンライン説明会」は大変評判がよいです。

感染症等が流行した際でも、人を集めることなく説明会を開催できます。リアルタイムで配信する方法だけでなく、あらかじめ撮影しておいた動画を流す方法等もあるので、学校の状況に合わせた形で開催することができます。



### ○ ポイント

限定公開という方法で配信すれば、学校が提示したURLや二次元バーコードを知る人だけに見せることができます。



もっとくわしく

**アイデア12** 休校や学級閉鎖等の時も、ウェブ会議ソフトが使えると、子供への支援ができます。

ウェブ会議ソフトを使えば、教職員が自宅待機をしている子供と顔を合わせることができ、家庭での様子を確認することができます。また、学習支援ソフトを用いれば、自宅待機中の子供への学習支援をすることもできます。家庭でいつ

も学習ができるよう、オンデマンド形式の学習支援から始めてみてはどうでしょうか。



### ○ ポイント

他の授業で使った教材や板書等も利用して、一人一台端末を用いた学習支援が教職員の負担になりすぎないようにしましょう。



もっとくわしく

## アイデア + α

- ・実施済みのテストのデータを学習支援ソフトで送信し、復習に役立てるよう促す。
- ・様々なICTを活用した宿題のアイデア
  - 夏休みのあさがお観察(生活)、月の写真撮影(理科)、部屋を掃除し前後を記録(家庭科)、自主学習の記録(九九暗唱・学習ノート撮影等)、自由研究をスライドで作成(各教科)・・・